Rotary Rotary International District 2500

2024.8.8（木）
第６回例会
（通算3768回）

2024-2025 年度
釧路ロータリークラブ会報

会長スローガン「地域を愛し、未来を語る　ロータリーの輪を広げましょう」

2024-2025 年度
国際ロータリーテーマ
ロータリーの
マジック

2024-2025 年度
ＲＩ会長 ステファニー A. アーチック

第 2500 地区ガバナー
小谷　典之（帯広西 RC）

第86代会長　髙橋　直人
副　会　長　吉田　英一
幹　　事　東堂　光春
編集責任者　クラブ会報・雑誌委員会

例会日　毎週木曜日 12:30 ～ 13:30　夜間例会 18:00
例会場　釧路センチュリーキャッスルホテル
事務局　釧路市錦町 5-3 三ッ輪ビル 2F
0154-24-0860　0154-24-0411

本日のプログラム	講師例会「若者の熱量で地域を盛り上げる」（プログラム委員会）
次週例会	ガバナー公式訪問例会（理事会）

■ロータリーソング：四つのテスト　　■ソングリーダー：東堂　光春君
■会員数　　105 名
■ビジター
■ゲスト　　一般社団法人ドット道東専務理事　野澤　一盛様

会長の時間　髙橋　直人会長

お食事中の方はお続けください。皆さま、こんにちは。夏休みになり、朝の早い時間に子どもたちがラジオ体操に向かってあわただしく自転車を漕ぎ公園に向かう姿がうかがえる時期になりました。仕事柄、朝早くから運転しているので気付くことができ、ほほえましい光景です。
それと同時に、いつも以上に交通安全について考えさせられます。子どもたちは目的に向かうことに必死で注意力が緩慢になっております。ニュースでも子どもの命が失われる痛ましい報道が後を絶たず、毎日、胸を締め付けられる思いです。子どもの事故を防ぐにはやはりドライバーひとり一人の注意力が防止につながると考えます。
また、高齢者の事故も後を絶たず、恐ろしく考えております。私も還暦を過ぎ、気が付かないうちに運転に必要な反射神経や判断力などは少しずつ薄れていると考えながら、過信することなくハンドルを毎日握っております。
長いドライバー歴になりますが、ヒヤリハットは多々あります。一昨年の 11 月 5 日土曜日、国道 44 号線を釧路町から釧路市に向かって走行していた時に、片側３車線で私は中央車線走行中に前方青信号でしたから直進して横断歩道に差し掛かった時に横断歩道を信号無視で走行する老婆の運転する自転車に気付き急ブレーキをかけました。ギリギリ停止しましたが、30 秒ほどその場から動けず、その時は生涯忘れることのない思いです。
今でもその交差点は走行できません。あとから聞いたのですが、老婆は逆の青信号を見て横断したようです。どんな理由があっても、道路交通法は弱者優先ですのでこのような経験は二度としないように気を付けて安全運転をします。
会員の皆さまも、例会に来られる際には、特に安全に気を付けるようにお願い申し上げます。事故なく、ケガなく、元気に本日も楽しい例会を過ごしましょう。よろしくお願いいたします。

幹事報告　　東堂　光春幹事

こんにちは。まず、８月 22 日のガバナー公式訪問例会において、事前の出欠と、ネクタイ着用と写真撮影のための 12 時 15 分集合というご案内をさせていただいております。参加者は 22 日 12 時 15 分までに集合していただければと思います。当日のお座席の関係で事前に出欠案内を出しておりますので、まだ出されていない方は早めに事務局までご連絡をお願いいたします。

地区大会のご案内です。先週ご案内しました 10 月 12 日 13 日、帯広で開催される地区大会ですが髙橋会長も 40 名の参加目標を立てております。登録締め切りが８月 28 日となっております。お盆休みもはさみますので、できるだけ早めに出欠確認を事務局まで

お願いします。
　第２回理事会の議事録ができましたので、横のホワイトボードに張っておりますのでご確認をお願いいたします。

新入会員紹介　木下　正明会員

皆さん、こんにちは。新入会員の桑原岳広さんをご紹介させていただきます。お勤め先は北海道電力ネットワーク株式会社釧路支店支店長です。お誕生日が昭和 41 年ですので現在 57 歳です。奥様と息子様二人が札幌にお住まいです。息子さん二人は歯学部と医学部に通っているということで大変優秀なお子さんをお持ちになっておられます。
前任の方も釧路ロータリークラブに大変なじんで、皆さんと仲良くされておりました。今は、にらんだような怖い顔をしておりますが、とてもいい方ばかりですので桑原さんもできるだけ多く出席していただいて仲よくして、早くなじんでいただければと思います。特に、夜間例会とかがポイントですのでご出席いただければと思います。
では、ご本人からご挨拶をお願いします。

新入会員のご挨拶
北海道電力ネットワーク株式会社釧路支店
支店長　桑原　岳広君

皆さん、はじめまして。ただいまご紹介いただきました北海道電力ネットワーク釧路支店の桑原でございます。
この度は、歴史と伝統のある釧路ロータリークラブに入会させていただきまして誠にありがとうございます。
６月 26 日付けで前任から引き継いで支店長を拝命し、自宅のある札幌から転勤してまいりました。こちらでの生活は家族と離れての単身赴任となりました。昨年、事務所は幸町から緑ケ岡に移転していて、こちらに来て思うことは末広から遠いなと思います。歩くと 30 分くらいかかるのです。夜の例会、夜のお付き合いを含めて楽しみにしておりますので、よろしくお願いいたします。
こちらに来る前は、本社の配電部という部署で普段、皆さまが目にしておられる電柱や電線など配電設備・配電系統の運用を、停電などがあった時には全道でいかに復旧するか総括的な仕事をさせていただいておりました。
皆さまとの交流をとおして釧路地域の理解を深めながら、歴史と伝統のある釧路ロータリークラブの一員としまして奉仕の理念に基づき活動してまいりたいと思います。皆さまとの今後の交流を楽しみにしております。どうぞよろしくお願いいたします。

歓迎の言葉と所属委員会の発表
髙橋　直人会長
　桑原会員、入会おめでとうございます。一言ご挨拶させていただきます。
　６月に転勤された多田さんの後任です。多田さんは２年ほどでしたが、釧路ロータリークラブの前年度親睦委員会でご活躍しておりました。桑原さんもぜひ楽しんでください。
　当クラブ会員は仲が良く、先輩後輩の壁もなく、気安く話ができる素晴らしいクラブです。委員会活動も活発ですので委員会にはぜひ参加していただき、交流をしてくださいますようお願い申し上げます。
　ご存知かと思いますが、ロータリーは出席が義務と言われております。出席は義務ではなく権利と思い、これから時間の許す限りロータリー出席を優先に参加していただき、最初の１カ月は知り合いも少なく辛いかと思いますが、会員全員で歓迎しますのでよろしくお願い申し上げます。
　桑原会員はクラブ会報委員会に配属いたします。堀委員長、よろしくお願いいたします。

■本日のプログラム■
講師例会「若者の熱量で地域を盛り上げる」

プログラム委員会　瀧波　大亮委員長

　皆さん、こんにちは。プログラム委員会の瀧波です。本日は本年度初めての外部講師による例会になります。
　一般社団法人ドット道東専務理事・野澤一盛様をお招きし、同法人の活動内容や所属している方たちが主に 20 代 30 代の若い人たちですが、この方たちの地域を盛り上げるという熱い思いについてご説明していただくとともに、この活動に私たちロータリアンがどのようにコミットできるかも触れていただこうと思います。
　それでは、野澤様、よろしくお願いいたします。

一般社団法人ドット道東専務理事　野澤　一盛様

ご紹介に与りました一般社団法人ドット道東の野澤と申します。本日はこのような皆さまの貴重なお時間を私にいただきましてありがとうございます。

この場に来させていただいて、ご飯を食べて30分くらい経ったのですけれど、僕が想定していた雰囲気ではなくて、なごやかに楽しい雰囲気が流れていると思ったのです。今日はたくさん詰め込んで話そうと思ったのですが、僕もお腹がいっぱいになって気持ち良くなってきたので、ゆったりと話したいなと思います。30分くらいですが、よろしくお願いいたします。

資料をご用意してきましたが、文字も小さいのでできる限り私の言葉でご理解いただけるような話にしたいと思います。

私は野澤一盛といいます。言葉からお分かりかなと思いますが京都の出身です。2011年に京都の大学を卒業しました。そこから東京に出て、３カ月東京に住んで前々日に札幌に転勤を命じられて、2011年から北海道におります。13年もいるのですが、イントネーションが取れなくて、そこは違和感があると思いますが、営業としては覚えてもらいやすいものとポジティブにとらえています。

雑談ですが、私、ロータリークラブのことは前から聞いていました。どうしてかなと思ったら、今日、シニアリーグ野球大会のピンクのパンフがありましたが、私も実は高校球児で野球をやっておりました。シニアではなくボーイズリーグでしたが、僕はこの時期は毎週、京都から滋賀県とか岐阜県に遠征をして大会に行っていました。その時にロータリークラブとか関西なのでライオンズクラブとかの言葉をたくさん聞いていて、そういう大人の方が支えていて大会が開かれていたんだなと、もう20年も経っているのですけれども、やっと気づきました。自分にも子どもができたのですが、僕もそのように支えられるような立場になれたらいいなと思いました。

僕は1988年生まれで、ギリギリの昭和生まれです。高校野球の流れで言うと、ハンカチ世代・田中将大が苫小牧駒大フィーバーで湧いた時期にずーっと野球をやっていました。僕のひとつ後輩に西武ライオンズで金子侑司が活躍しているのですが、ぼくがＢチームに下がった時に彼がＡチームになってレギュラーをつかんだのですが、そのピンクの冊子を見ながら思い出しました。そんな感じで京都で過ごしていました。

2011年に札幌に来て、元々は京都に帰ろうと思っていましたが、もう少し北海道にいたいと思って、北海道にいるのだったら北海道らしいことをしようと思って農業に関わる仕事を探していました。2016年に転職をして、このひがし北海道、道東に来ました。

その当時は、農業の人材支援の仕事をしていました。酪農家さんや農家さんの大規模化している農業の中で、どのようにして正社員を雇用して行こうか、どのようにして定着化するかみたいな仕事をさせていただきました。

今でも、ドット道東で人材、採用に関わる仕事をさせていただいております。その礎は2016年からやらせてもらっているのがキーになります。当時から年間で200人から250人が「北海道に移住したい」とか「農業をしたい」と言う方の相談に乗っています。本州の人がなぜ北海道に移住したいのか、農業をしたいのかの知見は今でも誰にも負けず劣らず持っているのかなと思っています。

そうこうしているうちに、一緒に起業したメンバーと出会うことによって2019年５月にドット道東という会社を設立させていただきました。代表が北見にいるので本社の登記は北見市ですが、私の拠点を十勝にしていて、週に１度くらいは釧路に来ています。１年くらい前に「クスろ」という団体の須藤がお話をさせていただいております。釧路には名塚と須藤がおります。後ほど詳しく話しますが、ボードメンバーは９人おります。様々な企画をしたり、企業様・自治体様のブランディング、情報発信のお手伝いなどをさせていただいております。

ボードメンバーは９人と言っておりますが、声掛けできるクリエーターとか大学生とか、若者が道東移住であったり、道東出身で東京や札幌にいるメンバーが100人くらいいるというチーム構成です。

私たちはドメスティックに道東のエリア、オホーツク・十勝・釧路根室だけの仕事をして行こうと決めておりまして、フルリモートで私は自宅で仕事をしています。北見には事務所がありますが、十勝と釧路のメンバーは自宅で仕事をしています。という会社組織になっています。

ドット道東はどのような仕事をしているかです。企業様、自治体、地域のブランディング。どのように自分たちの企業を良く見せるか、しっかり価値があるように情報発信ができるかを行っています。私たちは「言語化する」と言っていますが、「私たちの地域には何もない」とか「自分たちの会社には面白いことはない」というのを、客観的な視点で見させていただいて「面白く」「価値のある」見せ方を考えさせてもらって、情報発信するということをさせていただいております。

かつ、９人で仕事をしているだけではなくて、今は100人とかになっていますが、どんどん人は増えていっています。人をつなぎながらいろいろな制作、い

ろいろな企画をする仕事をしています。

私たちが創業する時に考えていたこと、かつ、今でも思っていることは、「自分たちが暮らす街のことは自分たちでやって行こうよ」というのが柱として仕事をさせていただいております。

情報発信のクリエイティブの仕事というものは、札幌や東京に行くケースが多いので、私たちがやっているデザイナーの名塚とか北見にいる代表の中西は、東京にいてそのような業務を学び、「地元に戻って来たいけど、地元にはそのような仕事はないよね」と仕事があるかどうか分からない不安の中で地元に戻ってきて、なんとか一人で生業を作っていったのです。

そういう同世代がとても多く、東京でないとクリエイティブの仕事ができないから、地元を離れるのが多かったのです。でも、僕たちがやっていく中で、徐々に地元から仕事をもらうようになって、僕たちが受け皿となって道東のエリアの仕事をいただいて、「いずれは、戻ってきたい」と言うクリエーターと一緒に仕事をすることで、彼らもこちらに戻って来る仕組みが作れたらいいなと思っています。徐々にそれが実現して行っていると思います。それが、自分たちが暮らす街のことは、僕たちは、クリエイティブとか企画を立てることでは頑張って「東京の企業ではなくて、あいつらにお願いしようか」と、今まで付き合っていた東京の企業ではなく、僕たちのほうがもっといいよねと言ってもらえるようなことをやって行こうと。それで結果的に、同世代と友人たちが戻って来ることになればいいという考え方で仕事をさせてもらっています。

創業して最初のプロジェクトは、この本を作ろうとガイドブックを作りました。ガイドブックといっても、地域の外の人が見て釧路や道東に来てもらおうという仕掛けではなくて、地域の人に地域を知ってもらおうという考え方で取り組みました。クラウドファンディングでお金を集めたのですが、どぉせだったら、自分たちで作るだけではなく、制作に関わりたい人の関わりしろを作ろうと「5000 円払ってもらったら制作に関われますよ」とリターンを設定しました。これは 5 人くらいかなと思ったのですが、中身を開くとビックリ、50 人の方に支援していただいて、その 50 人の方と一緒に本を作りました。おかげさまで、地域で作られた紙媒体のコンテストがあるのですが、そこで内閣府の地方創生部門、地方推進の事務局長に表彰していただける雑誌日本地域情報コンテンツ大賞をとることができました。

ガイドブックは、来たい人に届ける仕組みですが、われわれは地域の人に知っていただいて、地域の人が次の外の人・家族・友人に自慢できるものを作ろうというコンセプトで作ったので、「一人で 2 冊買ってくれたらいいな」みたいな、自分で読んで「これ、道東って面白い」となったら友だちにこの本を買って渡すことになったらいいなとして作りました。

いま、企業様とお仕事をさせてもらっている時にも、「社員の皆さんが自慢したくなるようなものを作りましょう」と話させていただいております。ここが礎になっていると思います。これ、コーチャンフォーさんでも売っているのかな。もし、ご興味がありましたらお手に取っていただきたいと思います。

この本を作って、われわれもビックリでしたが、「道東に帰って来たよ」「大学生がインターンしたい」という声がたくさん届いたのです。これは釧路で話しているから言うのではなくて、ＳＮＳのＤＭで一番届いたのが釧路出身の女子大生でした。地元を離れて「地元には何もないと言われているけれど、帰りたいけど仕事がないから札幌に居よう」という人にこの本を読んでもらって「けっこう、いいじゃん、地元は」みたいになって帰ろうと思いました、というＤＭが会社に届きました。これがすごく印象に残っています。釧路、根室、別海町などの 10 人くらいからいただきました。その内の 1 人 2 人は戻って来ているのかな。

この本を出した翌年に、東京の広告代理店が年に 1 回、学生の注目企業ベスト 100 を発表しているのですが、そこに選んでいただいたりしました。

そのガイドブックを皮切りに、いろいろなお仕事をいただいております。環境庁からの仕事でしたが、旅行者向けではありません。地域住民の方が国立公園の中で暮らしているのは世界的にも稀有なのですが、阿寒摩周国立公園の地域住民の方で地域に誇りを持っている、国立公園の中で過ごしていることが素晴らしいと思っている人の割合がアンケートをとると少ないので、もっと知ってもらえることを行おうと 2020 年から 2022 年の 3 年間、『自然の郷　ものがたり』を作りました。

釧路管内では鶴居村にブラッスリー・ノットというクラフトビールの工場を建てられた企業がありますが、そこの商品ラベル、パッケージをデザインさせていただいたり、情報発信を手伝わせていただいております。

そのほかに紙媒体のチラシを作ったり、十勝では宇宙産業が盛り上がっていて年に 1 回、宇宙サミットが開かれていますので、そこの空間造作とかイベントのＰＲをさせていただいております。

冒頭からたくさんの人が関わっているみたいな話をさせてもらっていますが、このショップカード 1 枚を作るにあたっても、僕一人で作っているわけではなくて、僕がディレクターみたいな立場でお客様のご要望

を聞いて、どのようなものを作るか、どのデザイナーとやると価値が最大化するか、を考えます。今回はかわいらしいデザインで行こうとしてデザイナーさんに声掛けをしたり、写真を撮るならカメラマン、文章を作るならライター、それぞれのプロが道東エリアにはたくさんいるのでその人たちと仕事をしています。

私たち９人がいます。また 100 人と仕事をしていますみたいな話はプロジェクトに応じてチームを結成しております。紙媒体を作るとなるとライターさん、デザイナーさん、カメラマン。Web サイトを作るとなると、インターネットサイトを構築するコーダーさん、Web に強いデザイナーさんと一緒に取り組みます。最近、意識しているのは、釧路の仕事は釧路の人だけ、十勝の仕事は十勝の人だけでやってみようとチャレンジしています。このようにプロジェクトに応じてチームを結成しています。私たちがいただいた仕事の中で、できる限り新しいメンバーを加えて、雪だるま方式で関わる人が増えるように意識して仕事に取り組んでいます。

私たちのキーワードの中で、地域で循環しているからこそ、活躍する人・働く人も増えて行くと思っています。ここを意識しながらクリエイティブの仕事をしております。

いろいろな方が関わっていただいて、道東を旅行するケースもすごく増えているので、ツアーで移住してみたい人を告知・募集して、その地域の魅力を体験してもらって、移住者を増やそうと今年の 10 月に開催するものです。オホーツクだったら１次産業、ＪＡ中央会さんと取り組ませていただいています。釧路管内では、釧路市と 2022 年から「新卒採用を活性化させよう」と大学生向けのインターンのプログラムを企業様と開発し、集客もして、３日間伴走させていただくインターンの事業をさせていただいています。これは今年で３年目です。１年目、２年目で関わっていただいた企業様は、翌年以降は独自でインターンをされていて、採用がうまく行っている事例も出てきています。釧路市とは３年計画で、今年で終わりますが、私たちとしては自信がついた事業なので、独自で若者を採用する所にはご支援させていただこうと思っています。

最近の話題です。皆さんも耳が痛くなるほど聞いていると思います。人口が減るだろうという話です。道東でいま 88 万人いるのですが、30 パーセント減って 65 万人。釧路市に関しては 15 万人、新聞報道では 2050 年に 10 万人を切るとありました。人口が減ると若者を採用できないというのが最近の話題です。

僕の実家が京都にあるので今年の正月に京都に帰った時に、京都は２月に市長選挙があったのでテーマとして新聞に出ていた記事です。北海道では「人口減少があっても都市部はいいよね」とよく聞くのですが、京都では「１年間に１万人が減っていて人口減少・流出が課題に」と。これを見た時に、どこも一緒、人口が減ることが前提でいろいろ考えなければいけないと思っていました。

京都はベンチャー企業が集まる都と言われたのですが、ベンチャー企業が出て行っているらしくて、それは北海道中、釧路でも企業流出があると思います。地方・都会関係がなくそのような課題があると思います。

ただ、そうも言っていられないので、われわれとしては採用の課題を解決するご提案も、いま若者が僕たちと一緒にやって行こうと言ってくれている中で、それを地域の皆さん、企業の皆さんにご提案できることをして行こうと、リクルートに対しての課題解決のことを考えていたりしています。

これは私がよくご提案で使わせてもらっている資料です。採用の考え方もかなり変化しています。今までの時代では、応募者が勝手にどんどん来て、それをふるいにかけて良い人だけをピックアップして採用するのが当然でしたが、今はそもそも応募も来ない、来ても採用できるかどうか分からない状況です。今まで、出会って、ふるいにかけて入社する流れでしたが、今は出会った後に口説いていかないといけない雰囲気に変わっています。かつ、出会うのも Web サイトとか親戚から紹介してもらったなど出会い方の変化があります。僕は「採用は営業活動だ」と言わせてもらっています。それは農業の求人をしている時からのことです。社長自らがいろいろな所に出向いて、いろいろな情報発信をしています。数年前はＸ（ツイッター）採用みたいな、それは陰りが見えてきましたが、ＳＮＳで採用するのが流行ったりしました。

口説くというところでも、「僕たちの会社、面白くないよ」と言っていても来ないので、女性を口説くのと一緒ですね。自分がいかに優れているのか、自分が会社に入ったらどういう未来を描けるのか、をないなりにしっかり作って発信していくことがとても重要になってきています。出会うとか、口説くことをお手伝いさせてもらっています。われわれは大学生ともコミュニケーションをとらせてもらっています。大学生の最近の流行りとか、どこで情報をとっているのかをしっかり生かしながら行っております。

あとは、「採用にもファン作りが必要」と言わせてもらっています。働きたい人にだけ響くのではなくて、周りの友だちがファンになって「あそこの会社、いい会社だよ。お前、入ったら」のような流れも作らなければなりません。最近は「親ブロック」「嫁ブロック」というのがあります。特に東京から釧路に戻って来るときは、嫁ブロックがすごいと思います。周辺の人に「いい会社だね」と言ってもらえるように取り組まないといけません。

それができると、社員の皆さんの満足度も上がって行くのがデータとしても出ています。私たちはコンテ

ンツを作るのが得意ですが、コンテンツを作ってファンを増やして、採用して行きましょう、と話させてもらっています。

これは文字が小さいですが、どういうことを考えているかを載せています。今日はあまり話さないでおこうと思います。就職活動前に、就職活動中に企業を知る時、応募するフェーズで何をしないといけないかが変わって来るので、ここをわれわれのサービスやクリエーターと一緒に考えさせてもらったりしています。

あとは、入っても辞めたら意味がないので、内定を出しても辞退されたら意味がないので、内定が出た後に何をしたらいいのか、入社後に長く活躍してもらうためにはどういう取り組みをしないといけないのかを最近、いろいろな企業様とお話させてもらっています。

出会いの場は、この後にご紹介する『DOTO-NET』というサービスで一緒につくりましょうと話させていただいています。

企業の魅力をつくることでは、私たちはコンテンツを増やして「働く理由をつくる」と言っていますが、紙媒体とかガイドブックを作った知見があるので「面白く･楽しく会社のことを発信していきましょう」と行っています。

私たちのキーワードを何回も違う切り口で話していますが、私たちは「ここで暮らす」と決めた以上は、「どぉせなら前向きに暮らして行こうというのを軸に」と、メンバー同士が言っています。それが、どうやったらできるかです。

「田舎だから何もないね」とか「どうせ、ここで暮らしても面白くないよね」という大人の声が子どもにダイレクトに届いて、「だから地域から離れて行く」とけっこう聞いています。そうではなく、僕たちは「ここで暮らしていて楽しいよね」「ここ道東でなら自分のやりたいことができるよね」と言えるようになれば、若い人たち、自分の子どもたちも戻って来てくれるのではないか、と思っています。その時に、2022 年に出した『ビジョンブック』、自分たちの第 2 弾の自費出版ですが、道東に暮らしている人の理想を 1000 人分集めて本にしました。プロ野球の選手名鑑のような感じです。道東にゆかりのある人が「私は道東でこんなことをしたい」「道東でこんなことができるよ」と言う本です。頭がおかしいなと今でも思うのですが作りました。

ビジョンブック、未来の本を作ろうと思った時に、自分たちが「こんな北海道に、こんな道東になったらいいな」を表現するのではなくて、ここで暮らしているひとり一人の未来というか、やりたいことが実現して行った先にはこの地域に残って行くよね、というのがあったのです。僕たちがこうあるべきだというのではなくて、ひとり一人のみんながやりたいことがあるから、それをみんなで応援する本になればいいなと思って作りました。これもコーチャンフォーさんに置いてあると思うので、もし良ければ。今日、1 冊だけ持って来ているので、ご興味があればお見せしたいと思います。

その時に僕らが気づいたのは、「やりたい」と声をあげる人がたくさんいます。その「やりたい」を「道東で、釧路でできないから札幌に行こう」とか「東京に行こう」となってしまっています。特にクリエイティブがそうだと思っています。それができる環境に持っていかなければいけません。それだけではなくて、実際にできている人たちはどのような環境を作れているのかをひも解いていった時に、「応援してくれる人がたくさんいる」とか「応援してもらいやすい環境を作っている」「自分が応援して、『自分がやりたい』と言って、自分が応援したから応援してもらえた」という発見、「そこが肝だね」と言う話になって、2023 年 11 月に地域内でサイト者の再循環を生む、若者を応援するコミュニティーをつくろう、応援し合える場所をつくろう、と『DOTO-NET』というサービス、コミュニティーの運営を開始しました。皆さまの机にある青いＡ４サイズの冊子でサービスの紹介をしています。細かいことはそこに書いてありますので見ていただければと思います。

私たちの仕組みとしては挑戦するとか、やりたいことを始めるのは何歳でもいいとは思っているのですが、一旦区切りを作ろうとして「道東ヤング」を 29 歳以下の方には無料で全て使える仕組みにしています。30 歳以上の方は「道東ミドル」、「道東カンパニー」という名称で企業の皆さまから協賛をいただいて、その運営資金を「道東ヤング」のやりたい人たちに使ってもらおうとしています。

まだまだ増やしていきますが、どういうことをやっているかというと、インタネット上でコミュニケーションをとれるような媒体を作っています。東京・大阪・札幌で年に数回、今年でいうと 9 月に大阪、10 月に東京、11 月に札幌で予定。札幌は 6 月にも行いました。定期的の道東にゆかりのある人が各地で出会える場所をつくります。「リトル道東」という名称でイベントを行って、東京で出会った人同士が道東に戻って来ているケースもすごく多いのです。とはいえ、リアルでイベントを行うときはお金が掛かりますので、協賛していただいた企業様にご相談いただいて、いろいろな方と出会える場を作りつつ、道東出身の若者たちが介する場をつくっています。

地域に就職したり、転職すると「友だちができない」

という課題もあるので、私たちは「クラスワークドートー」、地域に同期をつくるのをコンセプトに月に1回、オンラインで勉強会を行っています。僕も農業の就職支援をしている時に「友だちができなくて帰ります」ということがたくさんあったので、どうにかして、「若い世代が自分一人の会社でも、友だちを作ってこの地域に残りたい」と思ってくれることを行いたいと実験的にやらせてもらっています。

私たちは数年前に、ドット道東の大学生の時にインターンをしてくれていた方とか、釧路公立大とか帯広畜産大で道東の大学に通っていた方が東京に就職するケースが増えてきています。「いずれは道東に戻って来たい」という方がいますが、勝手に「東京道東同好会」を作っていただいています。道東にゆかりの25歳前後の若者が無限に増殖して行っています。それを僕たちが支援しようと、定期的に開かれる飲み会に「場所代を出すよ」とかやらせてもらっています。そこを一緒に盛り上げられたらいいなと思います。僕は久しぶりに3月に行ったのですが、知っている5人くらいに声をかけて「ご飯に行こう」としたら、20代の人が20人くらい来てくれました。そのうち10人は僕が知らない方でした。東京には「自分の地元に戻りたい。でも、今は東京で力を付けたい」という人がたくさんいるので、実は、明るい希望なのかなと思っていたりもします。

皆さまからご協賛いただいたものや、われわれで稼いだところで、いろいろな街に来るきっかけをつくる取り組みをしていきたいと思います。その第一弾が冒頭に話したＪＡ中央会さんのオホーツクで行った「オホーツクを体感しよう」みたいなことかと思っています。まずは来てもらわないと、移住とか、戻っては来ないと思っているので、釧路や道東のいろいろな街に来るきっかけを作っていきたいと思っています。

「ホントに戻ってきているの」とか「そんな若者はいるの」ということも延々と話したいのですが、実はいたりするのです。

釧路の隣の浦幌町の女の子です。東京出身で北海道にあこがれて、「道東で暮らしたい。本屋をやりたい」と相談をもらいました。「浦幌で本屋ができちゃうんでない」というので、実際に地域の人に応援してもらって去年の10月に『トリノメ商店』という本屋ができました。　浦幌は最近、若者がたくさん戻ってきていますので遊びに行ってみてください。

私たちのコーポレートビジョンは『理想を実現できる道東にする』を掲げています。理想の道東を僕たちが作るのではなくて、これはビジョンブックで体験したのですが、それぞれの理想が実現することが自分たちにとっての理想の道東になるという思いで今、仕事をさせてもらっています。この地域は面白くないとか、この地域の仕事は面白くない、この地域ではできないみたいなままであれば理想を実現しやすい地域にはなってこないし、この地域から離れるという現状が打開できないと思うのです。

いま僕たちは、「道東でもできるよね」「できてるよね、俺たちは」というのをしっかり伝えて、「道東だからできる」というのも増えると思うのです。これは僕たちが行っていく中で、見つけた「やりたい」を「できる」にしていくためには応援する・応援し合う仕組みが必要だと思っています。これは始めて半年のサービスですが、実験的というか「これ、意味あるの」みたいなファーっとしたところがあるのですが、こういう思いをもってやらせてもらっているので、もし、ご興味があれば遊びに来るとか、私に話を聞くとか、今日はホントは話せるだけヤングたちの話をしたいのですけれど、時間も限られているのでこんなことを考えていますということで終わりたいと思います。

ご清聴いただきましてありがとうございました。

本日のニコニコ献金

■横田　英喜君　今週末、釧路工業高校のグランドにて皆様の応援を宜しくお願い致します。

■鈴木　正信君　改めまして歴史と伝統のある釧路ロータリークラブへの入会をお認め頂きありがとうございます。

今年度累計　　64,000円